

令和5年度 大阪府立大冠高等学校 第1回 学校運営協議会（記録）

令和5年7月6日(木)14時
本校校長室（会議）

次第

1 配付資料の確認 等

- 1-1 校長挨拶
- 1-2 学校運営協議会要項の改正及び会長職についての確認（校長より）
 - 西村委員を会長に選出
- 1-3 委員および事務局の紹介（自己紹介）

☆運営協議会委員

	お名前	ご所属	出欠
1	西村 孝彦	関西外国語大学 英語国際学部 教授	出席
2	宮崎 義之	高槻市立第十中学校 校長	出席
3	尾村 麻由美	コーチングラボ Coco Style 代表	出席
4	深串 有里	高槻市民生児童委員	出席
5	土井原 美智子	大冠高等学校 冠友会 会長	出席
6	吉川 千晶	大冠高等学校 PTA 会長	出席

2 第1部 報告 進行：教頭

- 2-1 令和5年度学校経営計画の概要及び実施状況（校長より）
- 2-2 スクール・ミッションについて（校長より）
- 2-3 質疑応答

<委員より>

- リーディング GIGA 研究指定校になって府立学校全体への発信や、しゃべり場での有志の研修を行うなど、進んだ取組みを行っている。
- 国際交流が復活したのは良いことと感じる。今、実施しているスピード感がすごい。
- 安全面について、避難訓練で工夫をされているのか。
A：避難経路を点検し、非常階段の段差を解消した。ただ、5月実施時に教員の把握をできていなかったため、次回に改善する。
- 時代の先端ツールを取り入れて活動しているのは良い点。ツールに偏りすぎると先生と生徒の関係がうまくいかないことも。うまく使ってほしい。
- 生徒の相談体制はどうか。
A：悩みの複雑化、多様化を感じる。今年度より隔週で教育相談の小委員会を行い情報の共有に努めている。
- ヤングケアラーの状況はどうか。
A：40人弱が何らかの世話をしていると把握している。親の介護等で進路をあきらめないように、生徒からの聞き取りを行い、SSW(スクールソーシャルワーカー)による面談、関連機関の情報収集を進めている。親子げんか等、家庭状況の問題への対応が増えている。
尚、今年度からSSWは全校配置となった。

- 問題や状況の把握は、アンケート回答によるものですか。

コミュニケーションでの把握はどうか。

A：府立学校全体で日常生活アンケートや年3回のいじめアンケート等がある。日々の様子を担任が聞き取り、また、聞き取ったものを学年主任がとりまとめている。また、保健室での養護教諭への相談など、生徒からの聞き取りも行っている。教職経験の浅い教員には、人と対面する場面での対応（生徒とのコミュニケーション等）をする力をいかに鍛えるかが課題と感じている。

3 第2部 協議 進行：会長

スクール・ポリシー案の策定について（校長より）

<委員より>

- グラデュエーション・ポリシーが素敵である。

「自己を大切にしつつ他者を尊重する人」とある3点目が特に良い。

- カリキュラム・ポリシーは3点目がボヤっとしているように感じる。

A：具体的な1・2点目を受けて、3点目が器となっている。

- 「貢献する」とは役割を与えることで、「信頼される人」が大事なことである。
- 「継続力を高める」と、継続するだけでなく、その場限りでないのがポイント。
- スクール・モットーを大事に、不易を大事にしてほしい。

審議の結果、スクール・ポリシー案について、承認される。

協議委員から学校への提言

<委員より>

- 魅力ある授業づくりで、先生も大変だと感じる。

A：リアクションをどう求めるか。生徒の活動を作るなどの工夫も必要である。

- しゃべり場による研修で、ベターな魅力ある授業を模索できている。

- 一人一台端末で休み時間にゲームをする・動画を観る状況はないのか。

A：一人一台端末でそのような状況はない。

- ツールをうまく活用している中で、使うことが目的にならないように。

A：どう使うか。自ら考える主体性は、生徒とのキャッチボールが重要になる。

- 中学校では学級崩壊がある中で、高校ではあまり聞かない。先生方のフォロー体制が良いからなのだろう。

- 叱る場面で、大声で怒鳴ることは今ではしない。人と人との関係が大切で先生は支える存在。生徒がそのとき気づかなくてもある時に気づけば。期待してボールを投げれば、いつか信頼を得られる。だからこそ、「アカン」を言ってほしい。

- 広報活動を生かしてほしい。南アフリカとのWeb交流は、ぜひ広く発信してほしい。

- 学校全体が風通しよく、協力してしゃべり場などでブラッシュアップしてほしい。

4 諸連絡等

4-1 第2回の日程

10月中旬～下旬 開催予定(事前調整あり)

4-2 その他